

説教余滴 2019年2月3日 「久里浜の恵み」

週の半ば、久里浜へ行った。黒船市場があり、多くの商店が軒を連ねていました。地元産の水産品、野菜など新鮮なものが並び、価格も結構安く感じました。お昼時の人出にしては少ないようです。夕方、買い物の時間帯には、もっと多くなるのでしょうか。それとも、イオンの集客力に負けてしまうのだろうか。大規模小売店が進出すると、周辺からの客層は増えるが、地元の商店は抵抗できず、やがて店仕舞いになる、と聞きます。この商店街も本来のお店ではなく、新規に開店した、と見えるものが多いようです。あるいは、転業したものかもしれません。

ペリー提督の艦隊は、浦賀沖に停泊し、幕府の浦賀奉行と交渉しました。中嶋三郎助が交渉役の奉行でした。1853年7月14日、幕府は久里浜への上陸を認め、翌年神奈川で日米和親条約を締結します。久里浜海岸には、ペリー公園があり、「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」・・・題字は伊藤博文の揮毫による・・・が建てられています。明治期のもの。例年7月14日には、『ペリー祭』が開かれ、天候が許せば花火大会になるそうです。混雑はいやだけど、一度見に行きたいものです。

帰りの京急電車は快速らしい、と喜んでいたら、大津までは各駅に停まります、というアナウンス。住民優先、これでよし、と納得。車窓からは冬景色、と言いたいけれど陽光が明るく降り注ぐ中に、黄色の花が見えました。春の色と感じています。スイセンでしょう。

淡い色はラップスイセンかな。春の近さを感じました。

大津の手前かな、左側にテニスコートが20面ほど見えました。大会が開ける。電鉄会社の経営だろうか。色々考えられそうだな。コートに空きはありません。前面利用中。ことによると、大阪なおみ選手の全豪優勝の影響だろうか、埒もないことを考えていました。

寒中に豊かな陽光を与えられるのは、創造主の恵み、と感じます。